

研修分科会

テーマ【ラーニング・コモンズ】の概要

いよいよ、最終回です！

これまで、色々な角度から、大学図書館の直面している問題に光を与える方向を探ってきました。日々のルーチンワークに埋没する事なく、先を見据えた行動が、これからの大学図書館を変えていく原動力になるだろうと考えます。

『出版ニュース』(通号 2187) [2009.9.下旬] p.6~10に石松久幸「今、アメリカの大学でライブラリアンと呼ばれる職業が絶滅しつつある」という記事がありました。電子化の波で、図書館をスルーして情報を得る事ができるようになり、図書館は“場”としての意味しか残らないという、ちょっと極論ですが、考えさせられる点があります。今回は、その“場”としての図書館に焦点をあて、ラーニング・コモンズを取り上げます。

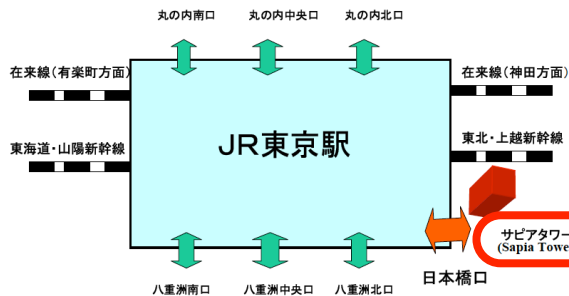
また、ラーニング・コモンズと、情報リテラシー教育は切り離せない関係にあります。いわば、「環境」と「企画内容」両面で学習支援を進めて行くのが、これからの大学図書館の在り方のひとつではないでしょうか。学術情報基盤実態調査(文科省)2008年度の統計では、課題として「情報リテラシー教育の充実」と回答した大学は、私立大学で19%(国立大学16.5%)となっています。大学図書館は、大学で学ぶ事の基本である「読めて書ける」教育の一翼を担うという意識を持つべきではないでしょうか。情報リテラシー教育を行う場合、これまでの図書館員の枠を越えた、コミュニケーション・スキルが要求される事と思います。今回は、そのトレーニングとして、パブリック・スピーチの実習を行います。

注意！

会場へは開始の**定刻前**にお越しください。

また、急に来られなくなった場合や遅刻する場合は、**必ず連絡**をお願いします。

大学図書館支援機構事務局 携帯番号：090-9100-0387



会場：埼玉大学

東京ステーションカレッジ

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-7-12

JRサピアタワー9階



2009年度 第4回
 12月5日(金)
 テーマ：ラーニング・コモンズ

第4回 ラーニングcommons

研修分科会 第4回 2009年12月4日(金) 13:00-17:00

事前の課題 締切：11/27(金)

各自、大学図書館の学習支援について、以下のシチュエーションから1つ選択し、説明資料を**パワーポイント3枚**にまとめる。

★すでに何らかの学習支援活動を行っている場合は1)~3)、まだ取組みをしていないところでは4)でも可。

《テーマ》

- 1) 図書館の学習支援(情報検索セミナー実施等)を学内(利用者)にPRする
- 2) ゼミへの情報リテラシー援助を教員にPRする
- 3) ラーニングcommons設置を大学に説明する
- 4) 図書館内の会議で、学習支援についての自分の意見をプレゼンする



《パワーポイントの形式》

1枚目：表紙 下記の事項を記入

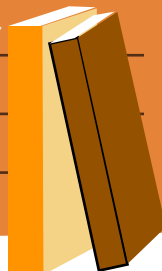
テーマ、タイトル、所属図書館、氏名、研修分科会第4回課題

2~3枚目は自由に作成

アニメーション効果をつけても可(但し、配布用印刷には1画面とします。)

time table

1:00-1:10	第3回テーマの主旨/事務連絡
1:10-2:30	小坏守氏講演
2:30-2:40	休憩
2:40-3:00	分かりやすいパブリック・スピーチのポイント
3:00-3:10	作戦タイム
3:10-4:50	プレゼンテーション実習
4:55-5:00	研究発表会について/アンケート記入



【1】講演



学習の場としてのラーニング・commons-日米大学図書館におけるライティング・サポート

小坏 守氏 (こあくつ・まもる 立教大学図書館利用支援課)

[概要]

大学図書館における学習支援は、単なる文献検索にとどまらず、学習環境としての図書館のあり方、レポート・論文作成支援や著作権理解にまで議論が広がっている。また米国大学図書館におけるラーニング・commonsや日本の大学図書館における先行の取り組みは、大学における学生の情報リテラシー獲得のための支援にまで発展している。今後の大学図書館のあり方、そして大学図書館における学習支援について今後の方向性を模索したい。

【2】プレゼンテーション実習



分かりやすいパブリック・スピーチのポイント

高野 真理子 (たかの・まりこ 大学図書館支援機構)

[概要]

情報リテラシー教育で学生に向けて話をすることや、研究発表等、プレゼンテーションの機会に役立つパブリック・スピーチのポイントを解説する。

プレゼンテーション実習

事前課題で提出したパワーポイントを使って、1人3分のプレゼンテーションを行います。全員が研究発表会の予行練習のつもりで、実際に分かりやすい話し方を実習してみましよう。よいプレゼンは、時間の厳守も大切です。3分以内でメリハリをつけた話ができるよう、若干作戦タイムを設けます。